



新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

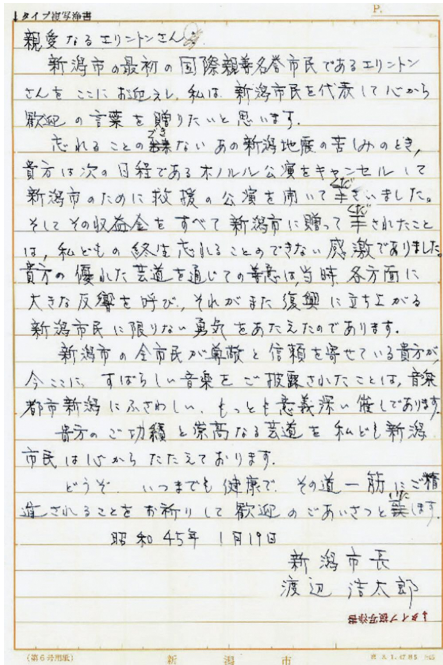
令和2年11月1日

第28号

資料紹介 デューク・エリントン 新潟訪問関係資料 ～国際課より引き継ぎの歴史公文書より～

「新潟市の最初の国際親善名誉市民であるエリントンさんをここにお迎えし、私は新潟市民を代表して心から歓迎の言葉を贈りたいと思います。」

この書き出しで始まる下の資料は、昭和45（1970）年1月、代表曲「A列車で行こう」などで有名なジャズ・ミュージシャンであり、新潟市の国際親善名誉市民であるデューク・エリントン（1899～1974）が新潟公演を行った際に、渡辺浩太郎新潟市長が述べた歓迎メッセージの起案文書です。エリントンと新潟市との関係を示す貴重なこの資料は、平成16年度に国際課から引き継いだ文書に収められています。



デューク・エリントンの来訪にあたっての市長からのメッセージ
（国際課「昭和43・44年度 米国関係文書」より）

エリントンが新潟市の国際親善名誉市民になった理由は、昭和39（1964）年の新潟地震の救援のために、慈善公演を開いてくれた人物だからです。エリントンに対する感謝の思いは、資料中の次の文面からも感じとることができます。

「忘れることのできないあの新潟地震の苦しみ
のとき、貴方は次の日程であるホノルル公演を
キャンセルして新潟市のために救援の公演を開い
てくださいました。そして、その収益金をすべて
新潟市に贈ってくださったことは、私どもの終生
忘れることのできない感激でありました。」

エリントンが新潟市と関わるきっかけをつくったのは、アメリカ大使館内に置かれた広報・文化交流局が所管する新潟アメリカ文化センターのアシュフォード館長でした。地震の数日後、新潟市内の惨状を目の当たりにした館長は、「アメリカとして何かできることはないか」と考え、日本公演のために来日中だったエリントンに相談することを思いつきました。アメリカ大使館の承諾を得て本人に連絡を取ると、被害状況を報道で知っていたエリントンは、突然の館長の依頼を快諾し、昭和39年7月8日に東京追加公演を開催しました。そして、公演の収益金全額（約92万円）を新潟市に寄付したのです。

昭和45年1月19日、エリントンは初めて新潟市を訪れ、新潟県民会館で念願の新潟公演を開催しました。この際に渡辺市長が壇上で読み上げたのが、冒頭で紹介した歓迎メッセージです。また、当日の様子を記録した写真38点が、広報課から引き継いだアルバムの中に収められており、下の写真もその中の貴重な1枚です。

それから半世紀が経ちましたが、現在でも「新潟ジャズストリート～デューク・エリントン・メモリアル～」が開催されるなど、エリントンへの感謝の思いは、新潟市民に受け継がれています。（敬称略）



歓迎メッセージを読み上げる渡辺市長

令和元年度事業概要

令和元年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

資料の公開

歴史資料整備担当では、古文書等の複製資料や、図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備担当へご連絡ください。令和元年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	35	46	86	9	24	200
複写	26	42	55	5	25	153
掲載	0	0	2	0	29	31
計	61	88	143	14	78	384

(令和2年3月31日現在)

資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。令和元年度の整理状況は次のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
上大川前通 江口家文書	寄贈	1406	回船問屋関係資料
五十嵐2の町 山下家収蔵資料	寄贈	12	近代写真資料ほか
古町通 吉野印刷所文書	寄贈	204	古町芸妓絵葉書ほか
伊藤仁太郎家文書	寄贈	119	水戸教関係資料
横越 市村家文書	寄贈	1923	近世～近代地域資料
三条市 佐藤家文書	寄贈	1	帝石橋写真アルバム
浜浦町 小池家文書	寄贈	17	新潟地震写真ほか
赤塚 本間家文書	寄贈	444	近世～現代地域資料

資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。令和元年度は北区（1件）・中央区（1件）・三条市（1件）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保

存しています。令和元年度は74点（紙文書50点、電子文書24点）、文書箱で23箱を引き継ぎました。

③歴史的学校資料の引き継ぎ

閉校となった学校の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史的学校資料として引き継いで保存しています。令和元年度は平成26年度に閉校となった栄・湊・入舟・豊照小学校の資料と、木崎小学校で保管していた旧横井小学校の資料を引き継ぎました。

歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月7日・21日、10月12日・19日に、新潟市万代市民会館で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催しました。期間中は台風の影響もありましたが、多くの方々にご参加いただきました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

日程 (参加者数)	講義名	講師
9/7 (120名)	新潟市域の山城と城郭	NHK文化センター 新潟教室講師 横山勝栄
	月潟図書館所蔵「文禄2年年貢請取状」を読む ～中世における月潟地域の開発と領有を考える～	歴史文化課 長谷川伸
9/21 (123名)	古町花街の成り立ちと現代的意義	新潟大学 工学部教授 岡崎篤行
	明治天皇巡幸関係資料を読む ～新潟市役所文書を中心に～	歴史文化課 高野まりい
10/12 (49名)	オランダに残る 明治期新潟の記録	新潟県立歴史博物館 専門研究員 西田泰民
	※台風の影響により、後半部は10/19に実施。	
10/19 (100名)	幕末期新発田藩の 地域と海防	新発田中央 高等学校教諭 高橋拓也
	江戸時代の佐潟用水関係資料 を読む ～佐潟用水引方仮割証文（赤塚本間家文書）より～	歴史文化課 高原雅樹
	「幕府北海検使開港場検分復命書」を読む ～新潟が開港場に選ばれた理由を探る～	歴史文化課 田中良成



令和元年度歴史講座の様子

(仮称)新潟市文書館建設計画について

文書館は、歴史的に重要な公文書や、地域史料(古文書)などの歴史資料を収集・保存し、公開するための施設です。申請すれば、どなたでも希望する歴史資料を閲覧することができます。

新潟市では、平成25年3月にまとめた「(仮称)新潟市文書館整備基本計画」に基づき、「(仮称)新潟市文書館」の開館に向け、準備を進めています。令和元年度に、文書館の基本・実施設計を完了しましたので、その概要を紹介します。

●設置場所

(仮称)新潟市文書館は、平成30年3月に閉校となった旧太田小学校(北区太田817)の校舎を改修して整備します。校舎は昭和47(1972)年に建設された鉄筋コンクリート3階建て(耐震補強済み)で、五頭連邦の山々と福島潟を望む田園地帯に位置しています。



(仮称)新潟市文書館周辺地図

●文書館の概要

1階(1階図面)



2階(2階図面)



3階(3階図面)



建物の仕様は、3階のほぼ全てと1、2階の青色部分が文書館の命とも言える収蔵庫となっており、温湿度管理が可能になっています。ピンク色部分は一般の方への公開スペースとして、1階に閲覧室・講座室等、2階に展示を行う資料公開室を設けます。緑色部分は職員の整理・執務機能で、資料の搬出入や調査はこのエリアで行います。

令和2年度は改修工事を行うとともに、令和3年度中の開館を目指して様々な準備を進めていきます。

◆お知らせ◆ 横越出張所に移転しました

庁舎再編に伴い、歴史文化課(歴史資料整備担当)は、令和2(2020)年6月1日(月)から江南区役所横越出張所1階に移転しました。文書館開館までの間、同所で業務を行います。

スペースを拡充した閲覧室で、簿冊資料の閲覧・複写や新潟市の歴史に関するお問い合わせ等に対応しています。ぜひご利用ください。なお、原本資料及びマイクロフィルムの閲覧は、文書館開館まで原則休止させていただきます。

■住所 新潟市江南区横越中央1-1-1 横越出張所

■電話 025-385-4290

■メール rekishi@city.niigata.lg.jp

■利用時間 午前9時30分～午後4時30分

(土・日曜日、祝日、12/29～1/3を除く)

■交通アクセス

○車：横雲バイパス「横越上町」交差点から2分

○バス：新潟交通「横越農協前」下車徒歩3分

○電車：JR亀田駅・荻川駅から「横バス」に乗り、「横越出張所」下車すぐ



広くなった新しい閲覧室

● 写真紹介 ●

戦前・戦時下における子どもの健康対策

平成26年度に閉校した豊照・湊・入船・栄の4小学校から歴史文化課が引き継いだ歴史的な学校資料のうち、栄小学校の写真資料を紹介します。

写真1は、美味しそうに給食を食べる児童と調理室や配膳室の様子を撮影したものです。

世界恐慌の影響もあり深刻な不景気が広がると、学校に弁当を持参できない児童も増えてきました。この対策として、昭和7(1932)年9月から翌年3月まで給食実施のための費用を各府県に交付するという政府の決定を受け、市内の小学校でも11月には給食が開始されました。近くの食堂に委託した弁当を提供する学校が多かった中で、栄小学校では調理室や配膳室を設けて調理員を雇い、栄養士の指導を受けた本格的な給食が提供されました。

写真2は、肝油服用の様子です。粒状の肝油ではなく注射器のような器具で、一人一人に服用させていることが分かります。

大正14(1925)年から開始された就学時の身体検査により、市内の小学校には発育不全や栄養不良等の虚弱児童が多いことが分かりました。栄小学校では、昭和5(1930)年に養護学級を設置して虚弱児童の健康維持と調査研究を進めました。様々な対策が講じられる中で、肝油や栄養剤の服用が効果的との他校の研究成果を受け、栄小学校でも昭和6(1931)年から肝油や栄養剤の服用を始めました。

写真3は、乾布摩擦の様子です。教壇に近い場所で、先生が乾布摩擦の模範を示しているようです。

昭和6(1931)年の満州事変、翌年の上海事変へと続き、昭和12(1937)年には日中戦争に突入します。こうした世の中の動きに伴い、健康に対する考え方も「銃後の守りは健康から」へと変わっていきます。昭和18(1943)年10月に市内で開催された健康教育研究会では、「健全なる身体の錬成」というテーマで、乾布摩擦の指導や武道の授業が公開されました。

子どもたちの健康対策は、戦争完遂のための営みへと変化していったのです。

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、お知らせください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。



写真1 学校給食の開始



写真2 肝油服用



写真3 乾布摩擦

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課 歴史資料整備担当

〒950-0292 新潟市江南区横越中央1丁目1番1号
(横越出張所1階)
TEL 025-385-4290
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp